



透析患者の命と暮らしを守る

―患者・家族の幸せを、ひかりの街から全国へ―

全腎協全国大会 長崎県腎協設立40周年記念合同大会
五月十七日(日)に、二〇一五年度全腎協全国大会・長崎県腎協設立四〇周年記念合同大会が長崎市の長崎ブリックホールで開催されました。
(紙面の都合上、内容の一部を抜粋して掲載させていただきます。)

全国から九百人を超える患者やその家族、医療関係者などが一堂に会しました。福岡県からは塩屋会長、中島事務局長以下約五十人が参加し、その中で「さわやか」からは山田、高原、貞谷が参加しました。

オーブニングは、鶴鳴学園長崎女子高等学校龍踊部の女生徒による勇壮で華麗な龍踊りで幕が開きました。命を懸け築いた制度を



暮らしを守る』として先人たちが命を懸け築いてくれた今の制度を、後世に守り伝えるべく、昨年四月、一

史上初めて『龍踊り』を女性のみで行う

龍踊りは長崎県の郷土芸能の代表格です。

鶴鳴学園長崎女子高等学校 龍踊部

五穀豊穡を祈る雨乞いの神事に始まったこの踊りは、宝珠(玉使い)一人と龍衆十人で操り、一説には、玉使いが振る金色の玉を「月」に見立て、稲妻が走り、雷が鳴り響くなか天を駆け巡る龍が月を飲み込んで闇夜を招き、雨を降らせて田畑を潤し、多くの実りとともに人々へ幸せを呼び込もうとする様を表したものです。

鶴鳴学園は、一九九九年の伝統ある女子高で、龍踊部は平成二五年四月に創部され、龍踊り史上初めて女子高生のみでの挑戦を続けており、十三年目になります。

使用する龍体は長さ二〇m、重さは百kgを超えており、



一般社団法人全国腎臓病協議会として、新しく生まれ変わりました。透析患者は高齢化が進み、無関心層も広がっています。

日本で唯一の団体

また、龍体の色は龍踊り史上初めての赤色です。赤色は古くからおめでたい色、幸せの象徴として人々に親しまれてのことから、赤色の龍を誕生させました。手の豆を何度も潰したり、体中痲だらけになりながらの郷土芸能伝承への取り組みが地域の方々に認められて様々な舞台で年間七十回ほど演舞しています。



この龍踊り部に入部したいがために、鶴鳴学園に入学してくる生徒も少なくないそうです。

かつて原爆という大きな痛みを受けたが故に、世界に向かつて平和の尊さを絶えることなく発信し続ける長崎の姿を見習い、もう一度全員が全腎協結成の頃の初心に返って、医療環境を守るための活動を広げていくと挨拶されました。

意義深いものを感じる

次にNPO法人長崎県腎臓病患者連絡協議会(以下長崎県腎協)の横山靖会長は、「今年は今全腎協全国大会が長崎県で初めて開催され、同時に本県の腎臓病患者連絡協議会が本日で満四〇年を迎えることと合わせて開催されることに大変意義深いものを感じます。四〇年前は極めて劣悪な条件の中で先輩方が努力してくれたお陰で現在の恵まれた環境があることに感謝しなければなりません。今回全腎協全国大会とあわせて長崎県腎協四〇周年記念合同大会を開催していただいたことに感謝し、歓迎のご挨拶とします」と述べられました。

その後、来賓の挨拶のあと、長崎県腎協の会員の西村照子さんが患者の訴えを述べました。

透析患者が一生安心して通院が出来るように...

西村さんはNPO法人通院支援センター「ほほえみ諫早」の運転ボランティアで理事でもあります。自らの透析や、「ほほえみ諫早」での患者さんの送迎のことなどエピソードを交えて話されました。

最後に「国会請願にも、『年をとっても苦勞せずに通院されるようにしてください』と訴えもありました。全腎協の方々には、私たち患者の代表として、より良い透析生活が送れる様、常に努力をされ、成果を上げて頂いている事に対して、感謝を申し上げます。

私たち透析患者が一生安心して、通院が出来るよう、今後も引き続き国へ働きかけをよろしく願います。私も出来る限り、長く「運転ボランティア」を頑張つて続けて参ります」と述べられました。

次に長期透析四〇年の表彰式が行われました。今年、全国で一〇八人の方が長期透析四〇年の表彰を受けられました。

その後、長崎県腎協の泉頭英夫氏が大会決議を読み上げ採択されました。(裏面に続く)

「ペコロスの母に思いをはせて」



原作者 岡野 雄一氏

記念講演は、「ペコロスの母に思いをはせて」と題して、映画「ペコロスの母に会いに行く」の原作者の岡野雄一さんが講演を行いました。

これは認知症になってしまった母親との日常のエピソードをマンガにして長崎のタウン誌に掲載していたところ、話題になり単行本を出すことになり、それが映画化されました。

岡野さんは、「しっかり者だった親が、普通の生活習慣をどんどん忘れ、子どもも忘れ、見る側からも患者側からも悲観的に語られることの多い認知症ですが、その症状をマンガで面白おかしくとらえたことが、ともすれば殺伐とした空気の中に居るしかない介護の現場で、ホッとする癒しの効果をもたらしたのでしようか。

介護自体が親子関係や家族のやり直しの時間だった自分と親との新しい接点を作るような気持ちで、親の人生を俯瞰（ふかん）で見るような

マンガでもあり親子関係のやり直しの意味合いもあつたのではないかと後付けで思います。

母は半年前に亡くなりましたが、思い返すと、介護自体が親子関係の、つまり家族のやり直しの時間だったような気がします」と語

交流会 二〇一五年度全腎協全国大会 長崎県腎協設立四〇周年記念合同大会

五月十七日の全国大会に先立ち前日の五月十六日に長崎市のベストウエスタンプレミアホテルにおいて、交流会が行われました。

これも全国から二百数十名の患者・家族や関係者が集まりました。

オープニングは、異国情緒の秀囲気を醸し出す、二胡の演奏で幕を開けました。開会の挨拶は全腎協の木村茂副会長がされ、NPO法人長崎県腎協の金子副会長が歓迎の挨拶をされました。四人の地元国会議員の方々の来賓挨拶があり、乾杯はさかぐち泌尿器科医院の坂口幹院長のご発声で行われました。

られていました。

昼食と休憩はさきみ、第五回透析のかゆみ川柳コンテスト表彰があり、その後特別講演として、「これからどうなる？ 私たちの医療と介護」と題して立教大学コミュニティ福祉学部教授の芝田英昭先生の講演がありました。

閉会の挨拶は、全腎協の馬場享副会長が行いました。

自由歓談の時間は久しぶりに逢う元気な仲間との交流にあちらこちらのテーブルで大きな笑い声などで、大いに盛り上がっていました。アトラクションは、長崎らしく、オペラ「蝶々夫人」が上演されました。

来年度の全腎協全国大会は

兵庫県神戸市で開催 全国の各ブロックごとに参加者が紹介され、来年度の開催地である、NPO法人兵庫県腎友会の方々による挨拶がありました。

その後、長崎県腎協の林田茂法副会長が万歳三唱と閉会の挨拶を行い、会はお開きとなりました。

2015年度全腎協全国大会・長崎県腎協設立40周年記念合同大会 スナップ集&エピソード集



長崎オペラ協会「蝶々夫人 (Madama Butterfly)」

20世紀初頭の長崎県を舞台に、アメリカの海軍士官に裏切られた蝶々夫人の悲劇を描いています。



長崎ペンギン水族館で、大きなカメラさんのはく製があり、背中に座布団が置いてありました。山田理事長に「ハイ貞谷さん乗って〜」と言われ、シブシブ乗ったのにピースサイン！「亀じゃなくて、白馬に乗った王子様〜お待ちしております」



二胡演奏 Sissi-Ji (シッシーチー)

二胡を立て弾き歌って踊るのがSissiの特徴的な演奏スタイルとなっています。

二胡は、中国の伝統的な擦弦楽器の一種で、2本の弦を間に挟んだ弓で弾きます。